

Q32 運動会での暑さ対策には、どのようなものがありますか。

A 「横浜市立学校 熱中症対策ガイドライン」が策定され、暑さ指数を計るWBGT計が各学校に4個配付されました。各校においても、

学校における熱中症予防のための指導のポイント

1. 直射日光の下で、長時間にわたる運動やスポーツ、作業をさせることは避けましょう。
2. 屋外で運動やスポーツ、作業を行うときは、帽子をかぶらせ、できるだけ薄着をさせましょう。
3. 屋内外にかかわらず、長時間の練習や作業の際は、こまめに水分(0.2%食塩水あるいはスポーツドリンク等)を補給し適宜休憩を入れましょう。
4. 常に健康観察を行い、児童生徒等の健康管理に留意しましょう。
5. 児童生徒等の運動技能や体力の実態、疲労の状態等を常に把握するように努め、異状がみられたら、速やかに必要な措置をとりましょう。
6. 児童生徒等が心身に不調を感じたら申し出て休むよう習慣付け、無理をさせないようにしましょう。

をもとに、適切な指導が行われていることと思います。

長時間、屋外での活動となる運動会では、さらに次のような対策が考えられます。

① 水分補給の呼びかけ及び時間の設定

アナウンスしたり、直接児童席に高学年児童が呼びかけたりするなどして、水分をこまめに補給するように促します。さらに、いったん進行を止めて、水分補給の時間を設定すると、全員が確実に水分補給をすることができます。状況に応じて、冷房の効いた教室に入り休憩をとることも考えられます。

② 児童席テント（タープ）の設置

運動会当日、ほとんどの児童がいちばん長い時間を過ごすことになるのが児童席です。テントにより直射日光を遮る効果は大きく、体感温度が全く違います。

導入した学校によると保護者からは好評で、「参観の妨げになる」といった否定的な意見はなかったようです。当然ながら、学校規模や運動場の広さに合わせる必要はあります。



1脚 1万円程度 ※ペグまたはウェイトは別途必要

③ ミストシャワーの噴霧

霧状の水を吹きつけ、気化熱を利用して最大で3度冷やすことができると言われています。写真のように伸ばして設置できると、広範囲に噴霧でき効果的です。設置が難しい場合は、持ち運びできる手動タイプのものを使うとよいです。保護者席（昼食用のシート）に水がかからないような配慮は必要です。



1セット 6千円程度 ※設置作業は職員が行う

④ 屋内昼食場所の開放

昼食の時間にも十分な休息がとれるように、屋内の昼食場所を提供することが考えられます。その際にも学校の実態に合わせて、次のような点を考慮します。

(場所)

- 体育館 ○廊下 ○特別教室

(時間)

- 終日 ○昼食時間のみ

(方法)

- 家族一緒に ○子どもは教室で親とは別に

(場所取りのルール)

- 先着順

※場所取りのルールを明確に全保護者に周知したうえで、入口が複数ある場合は、開放のタイミングがずれるなどして不公平感が出ないように配慮します。

- 抽選

⑤ 運動会全体の時間短縮

当日の天候により、必要な休憩・水分補給の時間を十分に確保するためにも、時間に余裕をもったプログラム編制にしたいものです。

【種目間の時間短縮】

準備・片付けを手際よく行ったり、入退場を簡略化したりすることで、種目間の時間はできるだけ短縮したいものです。

【各種目の所要時間短縮】

短距離走・リレー種目では、フライングが多く発生しないように、事前のスタート指導を確実にを行います。着順を判定して等賞旗へ誘導する係や、採点の集計を行う係の児童が手際よく活動できるようにするための事前指導も大切です。

また、種目ごとに制限時間を設定し、その範囲内で終わられるような内容となっているか、事前に確認しておくことも考えられます。

【半日開催】

種目を減らして午前中で全て終わるといった動きも出始めていますが、その際には留意しなければならないことがあります。

(1) 運動会のねらいを達成すること

運動会は、健康・安全に関する取り組みや体育的な教育活動の成果を学校内外に公開する重要な機会です。同時に、児童・生徒が役割を担いながら参加し、達成感や連帯感を味わうことができる教育活動でもあります。大幅な時間短縮を考える場合には、その教育的な意義が失われることがないように注意する必要があります。

(2) 保護者の理解を得ること

保護者の関心が高い運動会についての大きな変更であれば、当然のことながら、保護者に説明し理解を得た上で実施する必要があります。

必ずしも時間を短くすべきというわけではなく、教育的意義を保ちながら、学校の実態に合わせた暑さ対策をとることが大切です。